

SPECIAL

## 市立札幌病院 循環器内科部長就任ご挨拶

4月1日より、当院循環器内科部長として就任いたしました甲谷哲郎です。この場をお借りして、ご挨拶させていただきます。

### プロフィール

ここに至るまでの経歴ですが、札幌南高校卒業後、昭和48年に北海道大学医学部へ入学し、昭和54年の卒業(55期)です。卒業すぐに、当時、安田寿一教授が主宰されていた北大循環器内科へ入局し、同時に大学院へ入学いたしました。昭和58年に大学院を修了後、市立札幌病院救急医療部(現「救命救急センター」)へ勤務いたしました。救急医療部の発足初年度の勤務であり、循環器内科医2名で365日の循環器救急を分担しました。そのため、2日に1回当直するという大変忙しい日々を過ごしました。1年間の勤務の後、大学病院へ戻り、その年の10月からは、アメリカ合衆国マイアミ大学医学部薬理学教室へ約2年間留学し、不整脈の基礎的研究を行いました。帰国後は北大循環器内科で助手、講師、助教授として、研究・教育・診療に従事いたしました。そして平成14年9月から、NTT東日本札幌病院循環器内科部長として赴任し、平成24年3月まで約9年半勤務いたしました。そしてこのたび、平成24年4月より、当院循環器内科への勤務となりました。



循環器内科部長

こうや てつろう  
甲谷 哲郎



NTT病院では、平成21年に道内では初めて320列CTが導入されるという機会に恵まれ、約3年間で心臓CTを約3300件経験することができました。とくに糖尿病症例へ積極的に適用した結果、多数の無症候性の虚血性心疾患を診断することができました。すなわち、糖尿病では、自覚症状がなくても、軽微なST-T変化が有る症例、他の危険因子の重複する例などでは、予想以上に有意な冠動脈病変を診断することができました。当院でも平成23年10月より、まったく同じ320列CTが稼動しております。NTT病院での経験を生かして、さらにCT検査を積極的に適用し、虚血性心疾患の早期診断に努めたいと思います。地域連携施設の先生がたには、どうぞお気軽にご相談いただきたくお願い申し上げます。

### 循環器内科スタッフ紹介

当科の構成としては、加藤法喜(理事・循環器センター長)、甲谷哲郎(部長)、牧野隆雄(医長)、岩切直樹(副医長)、相馬孝光(副医長)、小松義和(副医長)、檀浦裕、浅川響子、相川忠夫、高橋雅之の10名のスタッフが、心臓血管外科スタッフと共同して、4階の循環器センター病棟を担当しています。また初期臨床研修医も常に2~4名がローテーション研修しており活気にあふれています。

### 循環器救急のご依頼・ご相談について

また、当科は、救命救急センターでのCCUも併せて担当しております。急性心筋梗塞を始めとした循環器救急のご依頼・ご相談は、

**CCU直通電話**

**ハートQQ:011-736-8199**

へおかけください。当科医師が24時間待機しておりますので、どうぞご相談いただきたくお願い申し上げます。

最後になりますが、29年ぶりに伝統ある市立札幌病院に勤務できたことを光栄に思い、地域医療、そして札幌市民の健康に貢献できるように頑張りたいと思います。みなさんのご支援をなにとぞよろしくお願い申し上げます。